

「理由はわからなかった」

「どうして学校に行けなくなったか、自分でもわからなかった」
中学生のとき、けやき教室に通所していた青年の言葉です。

けやき教室に通っていたころは、はしゃいでいたと思えば、急に無関心を装ったり、また周りの気を引くためにいたずらをしたりと、とても不安定さを感じる中学生でした。

その後中学校を卒業し、高校、転校、専門学校、就職など、その度に人間関係に苦しむ時期もありましたが、ときどきけやき教室に顔を出してくれていました。

そんな彼が 20 歳過ぎたころ、心の病に罹り、通院することになりました。その治療中、幼い頃の記憶や出来事、そのときの感情などを振り返る過程で、子どもの頃から、時折、押し寄せてくる感情があることに気がついたのです。

それは、「両親の離婚は自分のせいだ」という感情。
無意識のうちに、この感情が襲ってきて、胸が苦しくなり、落ち込んでしまうことや、その状況からなかなか抜け出せない時期も何度かあったようです。

不登校の始まりと両親の離婚もそのころのようでした。

今は母親が「離婚した理由はあなたのせいじゃないよ」と言ってくれて、やっとその言葉を少しずつ受け入れることができるようになってきたと言います。そして、今も「自分を大切に毎日を送りたい」とリハビリに励んでいます。

中学時代から、本人は気づかないままに重く苦しい思いを背負ってきた彼。「よく頑張ってきたね」と言葉をかけながら、わざわざ、けやき教室に来て、そのことを話してくれたことに胸が熱くなりました。

「そういえば、こんなこと」

雨で水がたまった池にザリガニを多数発見。
早速、釣り竿を作り、ザリガニ釣りスタート。

すぐに食いつくザリガニ。

目の前に餌があっても、素通りするザリガニ。

食べるだけ食べて引っかからないザリガニ。

餌よりも穴を掘り続けているザリガニ。



いろんなザリガニがいておもしろい…

けれど、こちらの思い通りには釣れないもんだ…